

【様式①】令和6年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立三輪南小学校

校長名 石 田 耕 太 郎

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	・学ぶ楽しさを実感し、主体的に伝え合う学習過程の工夫。 ・タブレット端末等を積極的な活用と児童個々に応じた学習支援の工夫。 ・ 英語でのコミュニケーション活動に進んで取り組み、異文化への興味関心を高める指導。	B	・保護者アンケートA評価29%、B評価53%。「つなぐ」をキーワードに児童が主体的に学習に取り組み、自己肯定感を高めることができる学習過程の工夫に努めた。 ・保護者アンケートA評価34%、B評価47%。 授業支援アプリを積極的に活用し、個々に応じた支援に努めた。 ・ 保護者アンケートA評価28%、B評価48%。英語でのコミュニケーションを核にした学習を実施した。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	・地域の人的・物的資源を積極的に活用したふるさと学習の実施とふるさとへの誇りと愛着を高める教育活動の推進。 ・創立60周年の歩みを確かめ合い、ふるさと三輪の魅力を確かめ合う地域行事の工夫。	A	・保護者アンケートA評価48%、B評価42%。学校運営協議会、支援推進委員会と連携した「ふるさと大好き作品展」「ふるさとウォークラリー」「ようこそ先輩」などを実施し、地域の人々との積極的な交流の場を創出し、活動内容を工夫した。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	・児童が、協働のよさを味わう経験を通して、自他のよさや違いを認識し、自己有用感を高める教育の推進。 ・教職員自らが学び続ける姿をロールモデルとして子どもたちに示すとともに、子どもたちとともに感動し、働き甲斐を感じる学校づくりの推進。	A	・保護者アンケートA評価56%、B評価39%。異年齢集団活動「なかよし遊び」や全校での8の字跳びの取組など、共通の目標に向けて仲間と協働的に活動する場を設け、互いを尊重しながらともに活動するよさを実感できるようにした。 ・タブレット端末内の「デジタル職員室」を活用し積極的に意見交流するなど、教職員個々の学びを共有しながら、指導力を向上させることができた。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	・健康安全に関する基本的な知識を身に付け、安心・安全な生活を守るために自ら行動できる児童の育成。 ・いじめについて考える日、いじめを見逃さない日の活動や内容の工夫。生命の尊厳への理解と互いを尊重しあえる学級・学校づくりの推進。	A	・保護者アンケートA評価54%、B評価40%。保健委員会を中心とした健康な生活についての呼びかけや、ヒヤリハット事案に基づく即時的な安全指導を行った結果、大きな事故等がなく一年間を終えることができた。 ・保護者アンケートA+B評価95%。いじめ対策監、人権教育主任、児童会企画委員会を中心に毎月の活動を工夫し、いじめを許さない、互いを尊重し合うことを大切にした教育活動を実施することができた。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	・児童の安心・安全を最優先に考え毎月の安全点検を確実に行う。落ち着いて生活や学習を進めることができる教育環境整備の計画的推進。 ・学校環境美化、適正な備品管理を行い、教育活動が速やかに実施できるよう努める。	A	・保護者アンケートA+B評価94%。毎月の安全点検結果だけでなく、校内を定期的に巡回し破損箇所、危険箇所への対応を早急に行った。教職員への研修を行い、児童のけが等に適切に対応できる体制を構築した。 ・学習用備品などを見直し、子どもが安全に活動するために必要な物品の購入、管理を計画的に進めた。

学校関係者評価委員会から	改善の方向
・タブレット端末を活用した教育活動を積極的に行うことで、児童の学びの広がり、深まりが期待できる。しかし、日本の教育が従来大切にしてきた言葉の力「読む・書く・話す」の指導もバランスよく行っていくことが大切である。タブレット端末による学習を行う際に、じっくりと書く、読む、話す活動も適切に取り入れていくべきである。	・個別最適な学習をめざし、自己選択・自己決定の場を位置付けた指導の工夫改善を行う。 ・デジタルシチズンシップ教育を計画的に行い、文具としてのタブレット端末を安全かつ有益に使用できる児童の育成に努める。 ・ 英語でのコミュニケーション活動を積極的に進めるとともに、学習の様子を保護者にも積極的に発信する。
・三輪南地区に住む人々から歴史、文化について聞く機会を教育活動に積極的に取り入れていくことは大切であり、今後も継続してほしい。 ・「ウォークラリー」については地域と子どもがともに学びあえるよい活動であるが、今後の実施方法については、常に魅力的な活動とするための工夫が必要であろう。	・次年度も学校支援推進委員会を核にした教育活動を積極的に進める。特に、児童と地域の人が語り合う、ともに活動する機会を増やしていけるよう活動内容を工夫改善する。
・異年齢集団活動を積極的に取り入れることで、自他の良さや違いを受け入れ、互いに協力して活動することで個々の自己有用感も高められるため、今後もさまざまな場面で取り入れていくとよい。 ・ICT機器を活用した学習は今後さらに加速的に発展する。教職員も自ら学ぶ姿勢を大切にしてほしい。	・異年齢集団活動の場を広げ、高学年のリーダー性の育成、自他の違いや良さを受容し、認め合える集団づくりに努める。 ・職員自らが適切にICT機器を使うことができるよう、職員研修を計画的に実施する。
・本年度大きな事故なく子どもたちが過ごせたのは、教職員と子どもたち一人一人の努力の成果である。次年度も、地域と連携して児童自らが安全に生活する力を付ける指導を継続してほしい。 ・いじめについて考える日、見逃さない日の取組を継続するとともに、その学びを地域や保護者へも発信していけるとよい。	・子どもの安全を第一に考え、ヒヤリハット事案の共有、研修を今後も継続していき、職員の危機管理意識を高める。 ・いじめを見逃さない日、いじめについて考える日の取組実施後の見届け、内容の共有、発信を確実にし、地域ぐるみでいじめを見逃さない体制を整えていく。
・校内の施設等の点検・管理を適切に行っている。学校は、地域住民も利用する施設である。危険な場所等があれば、連絡・対応を速やかにできるよう、地域からの連絡窓口を明確にできるとよい。	・安全点検の確実な実施。また、月の安全点検時の重点項目等の設定をし、職員自身が危機管理意識を高めることができるようにする。 ・次年度も教材費等の適切な会計処理に努める。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/miwa-s-e/>